

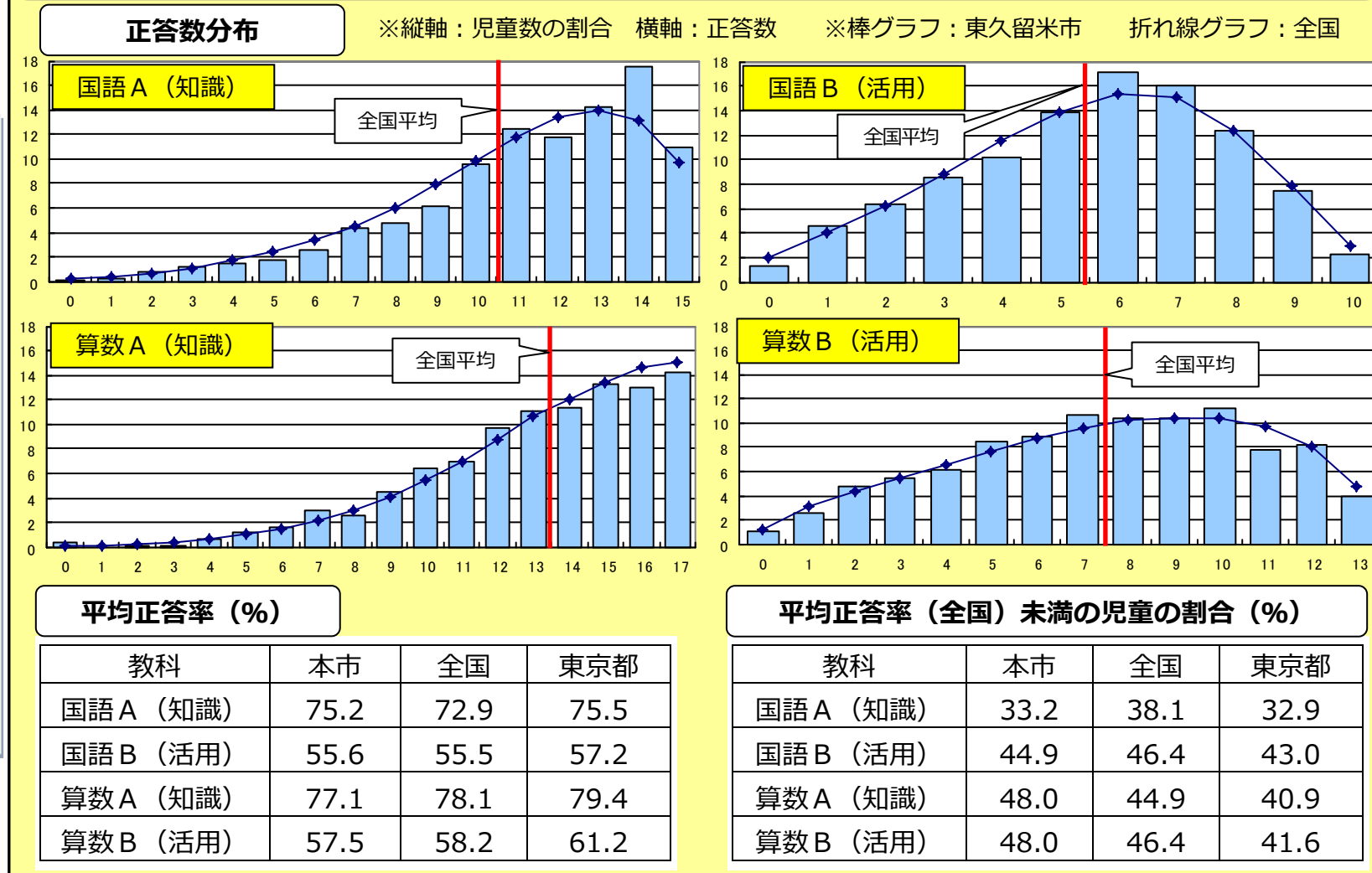
全国学力・学習状況調査及び市学力調査の結果について【小学校】

学力調査結果の公表の考え方

義務教育の目的は、各個人の有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培い、また、国家及び社会の形成者として必要とされる基本的な資質を養うことにある。
本市における、この義務教育の目的の学力面での達成状況を明らかにするため、学力調査の結果

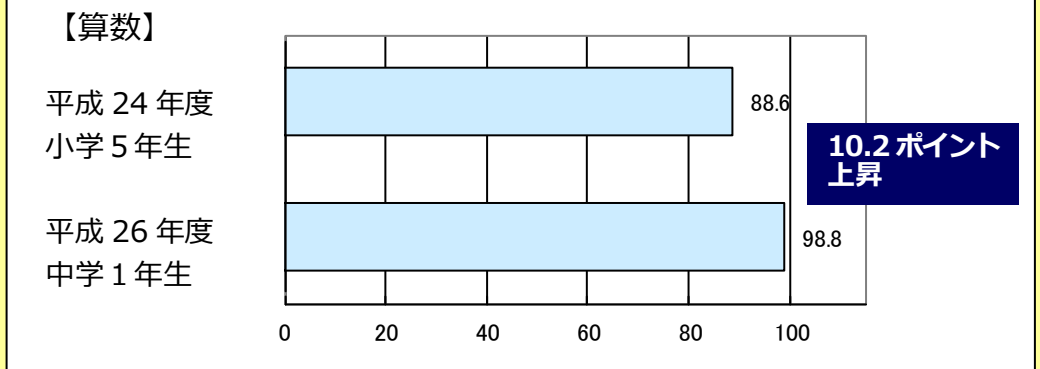
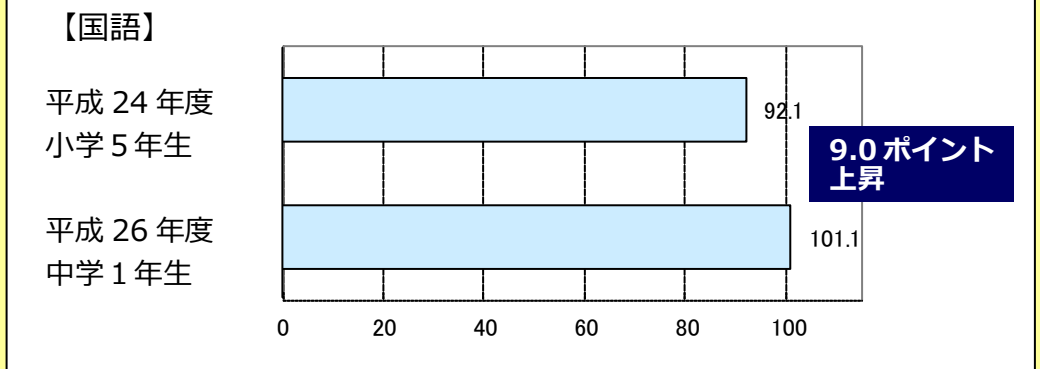
に基づき、(1)基礎的な学力の定着状況と、(2)児童・生徒の一人一人の学力の伸びを、市全体及び学校ごとにまとめ公表する。
また、この調査結果を、今後の教育活動の一層の改善・充実を図っていくための基礎資料とする。

(1) 学力の定着状況について (小学6年生) 平成26年度全国学力・学習状況調査 (平成26年4月実施) の結果より



(2) 学力の伸びについて 平成26年度市学力調査 (平成26年4月実施) の結果より

平成24年度小学5年生と平成26年度中学1年生 (同一児童) の本市の平均点を、それぞれ全国平均を100とした指数に換算し、伸びを比較



【概要】

- 国語において、平成24年度小学5年生では、全国値100を、7.9ポイント下回っていたが、平成26年度中学1年生では、1.1ポイント上回り、2か年で9.0ポイント上昇した。
- 算数において、平成24年度小学5年生については、全国値100を、11.4ポイント下回っていたが、平成26年度中学1年生では、0.2ポイント下回ったものの、2か年で10.2ポイント上昇した。

【各教科の課題】

- 《国語》
- 「心情の読み取り」「修飾語の理解」「漢字辞典の使い方」に課題が見られる。
- 《算数》
- 「単位間の関係」「2つの数量の関係」「小数の割り算」「商と除数と余りの関係」に課題が見られる。

調査結果の概要

現状・課題

【概要】

- 正答数の分布は、国語、算数ともにA (知識) において正答数の多い層が厚く、B (活用) においては、幅広く分布しており、正答数の少ない層が厚くなっている。
- 平均正答率は、国語は、A (知識)・B (活用) ともに全国平均を上回っているが、算数は、A (知識)・B (活用) ともに、全国平均を下回っている。また、全ての教科で、都平均を下回っている。
- 平均正答率 (全国) 未満の児童の割合は、国語B (活用)、算数A (知識)・算数B (活用) ともに、44%を上回っており、不十分な状況が見られる。また、全国に比べ、国語は、A (知識)・B (活用) ともに全国より1.5ポイント以上下回っているものの、算数は、A・Bともに1.5ポイント以上上回っている。

【各教科の課題】

- 《国語》
- 「立場を明確にして、質問や意見を書くこと」「二つの情報を比べて、読んで考えたことを書くこと」「分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関係付けながらまとめて書くこと」に課題が見られる。
- 《算数》
- 作図に用いられている図形の約束や性質を理解することや、示された情報を基に、それを整理し筋道を立てて考え、小数倍の長さの求めること、必要な量と残りの量の大小を判断し、その理由を記述することに課題が見られる。